

「戦争への道」を許さず、秘密保護法廃止を！

安倍政権の暴走を阻止するために全力をあげよう！

宮澤弘幸 追悼・顕彰 2.22 のつどいアピール

「戦後70」年。この歳月が積み重ねてきた日本社会の軌跡、日本人の営為とは何であったのか。歴史はある日突然始まったわけではない。われわれはこの「戦後70年」を、これまでの節目以上に関心を持って注目しなければならない。何故なら安倍政権は、これを機に日本社会が進むべき方向を、憲法9条を真っ向から否定し、戦争へ戦争へと国民を駆り立てる道へと大きく捻じ曲げようとしているからである。

軍機保護法で検挙され、戦後事実上獄死した北大生・宮澤弘幸が眠る新宿・常圓寺に結集した一同は、「戦後70年」だけでなく、それに先立つ74年前の太平洋戦争開始当日の12月8日、さらには国民が戦争へと駆り立てられた昭和の時代に引き起こされた事実を見つめ直す中から、「『戦争への道』を許さず、秘密保護法廃止！」の運動をさらに発展させることを訴える。

「北大生・宮澤弘幸『スパイ冤罪事件』の真相を広める会」は、2013年1月29日に、札幌で結成して以降、冤罪を糺し、宮澤弘幸の名誉回復と秘密保全法阻止を目的に、全国の仲間たちと闘ってきた。その結果、自大学の学生らが弾圧された事件を無視し続けてきた北海道大学は、宮澤弘幸ら弾圧は冤罪であったこと、「宮澤賞」創設とともに宮澤弘幸「スパイ冤罪事件」を風化させることなく継承していくことは明言したが、宮澤弘幸（遺族）に対する謝罪と責任明確化は為していない。そして「心の会の碑」（仮称）建立要求に対しては理由も示さず拒否を続けている。

一方、2014師走総選挙で、自公与党は多数を占めた。この安倍政権は、「憲法99条（憲法尊重擁護の義務）」を公然と無視して憲法改悪を企てている。憲法を順守すべき政府代表が、先頭にたつて憲法を否定する無法は真っ先に糾弾されなければならない。それだけではない。安倍内閣閣僚中8割近くが日本会議国会議員懇談会に所属している。日本会議とは何か。高橋哲哉・東大大学院教授は、「自主憲法制定、首相の靖国神社公式参拝、『自虐史観』の克服、教育『正常化』、在日外国人への地方参政権付与反対、男女共同参画反対、夫婦別姓反対など、まるで日本における右翼的スローガンの百貨店だ」（「世界1月号」）と警鐘を鳴らしている。

この安倍政権に対して、いかに対峙していくか。民意を反映しない小選挙区制による多数確保であるが、世論調査によっても支持が不支持を上回っている現実をいかに変えていくか、が問われている。

秘密保護法は2013年12月6日、自公与党によって強行可決された。阻止はできなかったが、成立の瞬間から、廃止を目指す運動が全国各地・各分野で続々と組織されている。同時に沖縄では辺野古の米軍基地建設に反対する闘いが力強く展開されている。名護市長選、沖縄県知事選、衆議院選挙沖縄小選挙区では、辺野古米軍基地反対を掲げて闘った候補者が全て当選している。そして「宮澤・レーン・スパイ冤罪事件」の真相を広める運動は、安倍政権暴走の危険性を暴露するために貢献している。

こうした運動を発展させる先に展望が開ける。軍機保護法弾圧に身を挺して闘い抜いた宮澤弘幸が眠るここ常圓寺から、「戦争への道」を許すな！ 秘密保護法廃止を！の声を高く上げ、運動を発展させていくことを誓い合おう。

2015年2月22日

「戦争への道」を許さず、秘密保護法廃止を！ 宮澤弘幸 追悼・顕彰 2.22 のつどい参加者一同